

新年度を迎え

支部長 大石晴美
(岐阜聖徳学園大学)

新年度を迎え、支部会員の皆様はお忙しい日々をお過ごしのことと存じます。皆様には、日頃の活動にご理解、ご協力を賜り御礼申し上げます。2013年4月1日より、大学英語教育学会は、「社団法人大学英語教育学会」から「一般社団法人大学英語教育学会」に移行しました。それに伴い、支部長の任期も新たに2年頂きました。同時に、中部支部は、新しい会員、役員をお迎えし、英語教育研究の発展に向けて努めてまいります。

我が国における英語教育を取り巻く環境は、ここ最近急激に変化しております。先日、高等教育の再生案の一つとして、英語教育の抜本改革が打ち出されました。国際社会で活躍する人材育成を目指し、大学受験と卒業認定に英語能力試験「TOEFL」の成績を要求するという案です。また、「新高等学校学習指導要領」において、「英語による英語の授業」の積極的な導入が唱えられています。今まさに、我々英語系研究者および英語教員としての力量が期待されています。

このような中、今年度は、6月1日(土)に、第29回支部大会を岐阜聖徳学園大学(岐阜キャンパス)で開催いたします。テーマは、「レトリックからみた英語教育—グローバルコミュニケーション能力の育成—」です。特別講演者として瀬戸賢一先生(佛教大学)をお迎えし、「レトリックと文法」についてお話しいただきます。その後のシンポジウムでは、4人のパネリストの先生方から「レトリック研究から見えてくる英語習得/教育への洞察」と題し、理論と実践をつなげる議論に向けて認知言語学、社会言語学、文学の観点から一石を投じていただきます。英語の習得及び教育に関心のある方々が本大会に数多くご参加くださり、フロアから忌憚のないご意見を伺えることを心待ちにいたしております。

その他、12月と2月に定例研究会を開催いたします。現在研究を進められている方、これから始めようとされている方、是非研究会にお越しいただき、我が国の英語教育について語りませんか。多くの皆様との交流を図り、情報交換を行い、時代に即した英語教育に向けて研究を深め、互に研鑽を積んでいきたいと存じます。

目次

新年度を迎えて	大石晴美	1頁
講演会報告		
・ 刈谷夏子氏「『ことばが育つ現場』としての大村はま国語教室」	木村友保	2頁
・ 滝浦真人氏「日本語は親しさを伝えられるか」	津田早苗	3頁
会員著書紹介		
『概説 社会言語学』	津田早苗	5頁
研究会紹介		
「ESP教育とノーマライゼーション」	馬場景子	7頁
Cyber Space		
The International Dialects of English Archive	Leah Gilner	7頁
掲示板		8頁
事務局より		8頁

今、新たに頂いた2年の任期を大切に、大森副支部長はじめ執行部一同、中部支部の発展のために、鋭意努力していく所存です。会員の皆様、これから会員になられる皆様に、支部の活性化にお力添えをいただくようお願い申し上げます、新年度の挨拶とさせていただきます。

講演会報告 1

『ことばが育つ現場』としての 大村はま国語教室

荻谷夏子氏

(「大村はま記念国語教育の会」事務局長)

2012年12月22日

(於 中京大学)

今回の講演会は、授業学研究会で講師を選んだ。授業を教師の最も大切な「現場」と捉え、その現場に最大の努力を注ぎこんで臨んだ大村はま晩年の教え子、荻谷夏子氏を招いて行った。筆者が自分の研究発表を終えた後、荻谷氏が講演を始めた。不思議である。荻谷氏が話し始めると、静寂が会場いっぱいになり、大村はまが醸し出したように、荻谷氏も、自分が担当した「現場」を見事に「ことばが育つ現場」とした。

荻谷氏は大村はまの国語教室を2つの要点で

まとめた。1つは、「実の場」でことばを教えたという。ことばの学習では「文脈に合ったことばを教える」ことが強調されるが、現実には、擬似環境の下で「～っこ」に終わってしまうことが多い。大村はまは、空疎なことば使いをさせない工夫をし、人間の体温を十分感じさせることばのやり取りを常に求め、誘おうとしたという。荻谷氏は大村はまが63歳から65歳という時の教え子で、当時は図書館で授業をしたが、たった45分の授業を受けただけで、その授業の最後には「参りました。先生について行きたい」という気持ちになっていた、と告白している。大村が初めてヨーロッパを旅した時の「土産話」を聞かせた授業であった。一緒に旅をした人の話では大村は旅の間中、その「土産話」の準備をしていたそうである。大村はまが発することばはとりあえず意味が通じればいような「便宜的なことば」ではなかった。その代わりに、その時々場面に応じてまさに「ことばの威力」を示した。「ことばはこういうふうに使ってこんなにも活きるのだ」ということを常に具体的に示した、という。

もう1つは、大村はまは常に具体的な「てびき」を示したという。そして、いつも自分の授業を更新していた。大村はまは「教えるプロ」であると同時に、「学ぶプロ」でもあった。そして、生徒は「学ぶプロ」から学び方を学ぶべきであるという信念を持っていた。大村はまは、特に教えることの中で「作文を教えること」を専門としていた。講演中、特に筆者の注意を引いた具体的な作文の指導方法は、生徒が作文を

南雲堂の英語テキスト

多読とライティングの『総合時事英語テキスト』が登場！

2013年度新刊

木村友保 / 佐藤雄大 / 浅井恭子 編著

Better Reading, Better Writing with NHK WORLD NEWS B5判 120頁 CD付 2,100円(税込) 全28章 各章4ページ Review test有

『NHKワールド・ニュースで学ぶ日本と世界の姿』—多読とライティングでその深層に迫る— 多読とライティングを通して時事、放送英語の捉え方をマスター!

POWER-UP シリーズ

▶ *Power-Up English* <上級編>/<中級編> 2013年度 改訂新版登場! /<基礎編> ▶ *Forerunner to Power-Up English* <入門編> も好評!

コミュニケーションに必要な英語の基礎力養成に! JACET リスニング研究会編 B5判 1,995円(税込)~

片野田浩子先生 大好評テキスト<TOEIC>シリーズ!

A Shorter Course in TOEIC Test Reading 450, 550, 650 K(カナダ)メソッドによる『5分間』新TOEICテスト・リーディングシリーズ

A Shorter Course in TOEIC Test Listening 450, 550, 650 K(カナダ)メソッドによる『5分間』新TOEICテスト・リスニングシリーズ

サブテキストに! 半期用教材として! 使い方多様! レベルに合ったスコア一別! 大好評『5分間』シリーズ B5判 各735円(税込)

〒162-0801 東京都新宿区山吹町361 TEL: 03-3268-2311 · FAX: 03-3269-2486 · E-mail: nanundo@post.email.ne.jp · URL: http://www.nanun-do.co.jp/

書いた後、自分で書いた内容について、生徒自身が作文上の問題点を必要な箇所に入れることである。たとえば、AからGまでの問題点の入れ方を紹介した。Aは自分で書いた作文のある箇所に「ここはもっと簡単に、あっさり書くべきだったでしょうか」という意味であった。Gは「このことばは、言い方は、たいへんもの足りないです。しかし、ほかのことばが、どうも思いつきませんので、とにかくこのようなことばで書いてあります」という意味である。生徒がもしGという記号を書いた場合、そこでは大村はまも真剣勝負で臨んで、プロの教師としての活躍を見せたという。生徒が書いた通り、ある箇所が簡単に書いてなければそのAという記号に○をつけ、Gが入っていれば教師の（語彙であることも、文であることもあった）提案を示した。こうして、教師と生徒が真剣勝負で「交流した」のである。

今回講演依頼を担当した者として一番心配していたことは、プロの国語教師の実践がどのように英語教育に結びつくのかという問いであった。しかし講演後、何人かに尋ねたところ、その点はクリアしたことを知って胸をなでおろした。

木村友保（名古屋外国語大学）

講演会報告2

「日本語は親しさを伝えられるか
—英語からの示唆も得て—」

滝浦真人氏


2013年2月23日
(於 中京大学)

2月の定例研究会の研究会発表担当は待遇表現研究会であることから、日本語の敬語とポライトネスを関連付けた2冊の著書で知られた滝浦真人氏にご講演をお願いした。以下にその要点を紹介しよう。

本講演では、ほんの100年余前に策定された日本語の標準語が日本人のコミュニケーションスタイルの基本となり、外国語コミュニケーションの際も日本人を束縛していることを明らかにする。

「日清戦争」と「日露戦争」の間の時期に、「標準語」と「あいさつ」という形でことばと身体の規範化が行われた。地域方言や京・江戸のことばとは異なる「国語」という概念は当時の人の理解を超えていた様子が帝国議会の議事録からうかがえる。現代の日本人が当たり前だと思っている「あいさつ」の起源は大正時代の作法書にあり、そう古いものではない。そこでは、近い間においても礼儀を守ることが強調され、最初と最後を定型の「あいさつ」に置く

e-ラーニング語学学習の決定版！全国430校以上の教育機関で導入



◆◆ 充実の16コース ◆◆

基礎英語・リメディアル教育

- 初中級コース プラス
- 基礎英語コース
- 英語入門コース

ESP(専門英語)学習対応

- ライフサイエンス英語コース
- 技術英語<基礎>コース
- 技術英語パワーアップコース
- 医学英語<基礎>コース

英語総合学習対応

- TOEIC®テスト演習2000コース
- スーパースタンドコース
- スタンドコース
- PowerWordsコース プラス
- 英文法コース
- ライティング<基礎>コース

英語以外のコース

- 日本語コース
- 中国語コース
- ITパスポートコース

独自のLMSと学習機能

- 使いやすいクラス管理機能
- 小テスト作成機能
- 学習者ランキング
- 語彙テスト(道場)
- <オプション機能>
- 認証連携対応
- 学外アクセス(自宅学習)対応

デモ版のご紹介も行っております。
ぜひ一度ご覧ください。

(株)アルク教育社 Tel:03-3595-2841
bunkyo@alc-education.jp

形式が定着した。「作法」としての言語活動の規範化は現代の日本語における詫び談話などにも見られ、外国の日本語学習者の習得を困難にしているようだ。

英語は世界言語として使われるようになった過程において、共同体の言語から相手の顔の見えない言語へと変貌をとげた。たとえば、親称と敬称の T-V の変化において他のヨーロッパの言語とは異なり、英語は親称 *thou* を廃止し、敬称 *you* を両方に用いるという対人距離を大きくとる選択をした。このような変化は大英帝国が世界を相手に飛躍する時代と一致している。

日本人の英語習得について考えると、あいさつを定型化して考える日本人は、英語も定式化して覚えなければ気が済まないという態度となっているようだ。標準語制定の作業がなされた時代に「あいさつ」の作法の審議の中心となった田所委員はイギリスを視察し、答申を作成したと推察される。

ヨーロッパ言語の呼称 T-V の違いは相手との距離であるが、こればブラウンとレビンソンのポライトネス理論の出発点でもあったと考えられる。敬称は対人距離を大きくするという点で共通し、ヨーロッパ言語のみならず他の言語にも同様な仕組みがある。

日本語の敬語は「尊敬語」「謙譲語」「丁寧語」の3種によって相手をソト待遇にするかウチ待遇にするかという人間関係のマーキングを行っている。複雑で無限にある対人関係を敬語によって予測可能な関係に縮減しているのだと考えられる。

山岸俊夫（1998）の用語を借りれば、日本語は敬語のように予測可能な定型を基本としているので「安心」のコミュニケーションであるといえる。これに対し英語のポライトネスは定型表現ではない。T-V の呼称や Epithet 使用の例からもわかるように相手と呼ぶことから始まり、解釈過程を経て人間関係が築かれるので「信頼」のコミュニケーションといえよう。日本語も標準語以前の時代には定型ではないあいさつが普通であったことが、江戸庶民のことはを反映する『浮世風呂』などに見て取れる。

本題の「日本語は親しさを伝えられるか」への答えに関しては、「標準語」の人為性を認識することの重要性を強調したい。標準語における敬語やあいさつなどは、おそらく西洋の上流社会をモデルとして「作法」として整えられたものである。今必要なのは、このような作法ではなく、丁寧さから親しさへ、「安心」から「信頼」へのコミュニケーションなのではないだろうか。

情報量の多いパワーポイントを使い、メモ無しで広範な内容をよどみなく話された滝浦氏の講演を要約するのは困難だが、その一端だけでもお伝えできれば幸いである。

津田早苗（東海学園大学）

大学生のための新しい英語力診断テスト

VELC Test® [ベルクテスト]

Visualizing English Language Competency Test

お問い合わせ：VELC 研究会事務局
東京都千代田区神田神保町 3-21 (株) 金星堂 内
e-mail: info@velctest.org 電話：03-3263-3828 FAX: 03-3263-0716
http://www.velctest.org

会員著書紹介

岩田祐子・重光由加・村田泰美 [著]

『概説 社会言語学』

ひつじ書房 2013年

ISBN978-4894766372

2,310円 328頁

待遇表現研究会のメンバーでもある著者達が渾身の力をこめ執筆した社会言語学の入門書である。社会言語学の授業を持つと、社会言語学の諸分野を基本的文献に基づきその内容を要領よく解説のある教科書向きの日本語の入門書が意外に少ないことに気づく。『社会言語学への招待』(1996)はそのような本の一冊だが、著者のお1人でもある田中春美顧問のご推薦をいただいたのが本書である。先生ご自身に紹介をお願いすればより正確な紹介が書いていただけたと思うが、私の力の及ぶ範囲で紹介しよう。英語で書かれた社会言語学の入門書を見ても言語変種や地域・社会方言の調査・記述に重点を置くもの、このような現象を会話やコミュニケーションの観点から分析・記述するものどちらかに偏りがあるのが実情だ。両方を網羅したような英語の概説書を教科書に採用しても日本語を例とした説明はほとんど無い上、学生たちに1回の授業のために30～40ページもの英文を読むことを課すことになる。このような理由で本書の出版はまことにタイムリーだと言える。

本書は広範な社会言語学の分野をバランスよく配し20章にまとめている。各章は15ページ前後から成り、各章の基本的概要について基礎となる文献に基づきながら日本語の事例も加え、わかり易く説明している。各章の終わりには、章で扱われた専門用語リスト、解説付きのおすすめ読書リスト、問題が準備され、章で扱った参考文献が掲載されている。以下に20章のタイトルと内容の概要を4～5章ずつに分けて紹介する。

「第1章 社会言語学とは」では構造主義、変形生成文法に対して主張されたハイムズのコミュニカティブコンピテンスを中心に社会言語学の目的が説明されている。「第2章 言語と地域」では地域方言と社会方言、標準語、公用語、言語政策などが取り上げられている。「第3章 言語と社会階層」では言語と社会階層についてトラッドギル(2000)のイギリスおよびラボブ(2006)アメリカのニューヨーク市における調査が明快に要領よく紹介されている。「第4章 言語と民族」ではアフリカ系アメリカ人の英語、リンガフランカ、ピジン・クレオールなどの話題がとりあげられ、民族と言語の結びつきがわかる。「第5章 言語とジェンダー」ではジェンダーと言語との関係を会話スタイル、男女の表現、性差別的言語などからとりあげている。

ここまで読むと、読者は社会言語学の研究対象とするのは何かははっきりとするだろう。2章と3章の両方にトラッドギルの説明があるが、2章では英語の地域変種の説明により多くのペー

成美堂 2013年 新刊テキストのご案内

学習者のやる気を引き出す、やさしい総合教材!

角山照彦, Simon Capper

Let's Read Aloud & Learn English!

豊富なタスクを取り入れたニュース映像教材!

熊井信弘, Stephen Timson

CBS NewsBreak

身近な話題から世界へと広がる科学の映像教材!

椋平 淳, Bill Benfield, 辻本智子, 村尾純子

AFP Science Report

やさしい TOEIC のリスニング副教材!

石井隆之, 山口 修, 小林英雄, 梶山宗克, Joe Ciunci

Listening Promoter for the TOEIC® Test

好評 TOEIC シリーズの決定版!

石井隆之, 山口 修, 上田妙美, 梶山宗克, Joe Ciunci

**Perfect Practice
for the TOEIC® Test**

TEL:03-3291-2261

FAX:03-3293-5490

<https://www.seibido.co.jp>

 **SEIBIDO**

ジを割くことも可能だったのではないかと感じた。

「第6章 言語と年令」では英語と日本語における年令と言語の関係を取りあげている。働き盛りには標準変種の使用が多くなること、若者ことばと非標準語の使用など興味深い。「第7章 言語の選択」では多言語社会におけるダイグロシア、言語の死、バイリンガリズムとコードスイッチングなどを事例とともに示している。「第8章 言語の状況差、適切さ（スタイルとレジスター）」ではスタイルとレジスターとは何かについて、様々な社会言語学者の定義を紹介しながら具体例とともに説明している。「9章 ポライトネス」はグライスの会話の格律とその違反としてのポライトネスについてブラウンとレビンソンのポライトネス理論を中心にわかりやすく説明されている。「10章 会話のしくみ」ではエスノメソドロジーの会話分析理論について、ターンテイキング、隣接ペア、あいづち、ポーズなどを中心に述べられている。

6章から10章では社会言語学の扱う多様な言語現象が更に詳しく述べられている。バイリンガリズムの説明、レジスターの説明、ポライトネス、会話のしくみなどの記述に著者たちが様々な文献を援用し、精緻かつ簡明な解説をしている点に頭が下がる。

「11章 コミュニケーションの民俗誌」ではハイムズの理論を説明し、呼称、日本語の敬語、西欧語のTVの使い分けなどを取り上げている。「第12章 会話という相互行為（相互行為社会言語学）ガンパースを中心とし、コンテクストに注目する理論を取りあげている。「13章 会話分析と異文化コミュニケーション」はガンパースによる発話内容の解釈の枠組みの文化間の相違による誤解について例をあげ、解説している。「第14章 さまざまな会話スタイル」では文化がターンテイキングの方法や談話の組み立ての方法にどのように影響するかを具体例から説明し、それぞれの文化の価値観の影響が大きいことを指摘している。

11章から15章では、社会言語学者でも違い

が説明しにくい会話分析とコミュニケーションの民族誌との違い、会話分析と異文化コミュニケーションとの関係、会話スタイルの理論的背景などが要領よく説明されている。

「第15章 言語と思考と文化1－言語人類学的観点から」ではサピア＝ウォーフの仮説、ハイコンテクスト、ローコンテクスト文化の違い、日本語の他称詞・自称詞などが説明されている。

「第16章 言語と思考と文化2－認知言語学的観点から」では外界の把握の仕方を説明するプロトタイプ、カテゴリー化を説明し、メタファー、メトニミー、空間概念の把握について説明している。「第17章 言語とイデオロギー」では、イデオロギー（私達が考えや行動に大きく影響を与えている信条や感情の総体）とことばの関係について、文化・社会の中で習得される構築主義の観点から批判的ディスコース分析を中心に紹介している。「第18章 語用論の基礎知識」では社会言語学と関連する語用論の知識として、ダイクシス、命題・前提・論理的含意・交感表現、スピーチアクト、会話の協調の原理、言外の意味などを取り上げている。「第19章 社会言語学からの貢献」では英語教育、裁判、異文化間コミュニケーションを例にあげ社会言語学の社会への貢献について述べている。「第20章 社会言語学の研究方法」ではデータの種類、収集方法、質問紙調査、データの文字化、インフォームドコンセント、守秘義務などが説明されている。

ここまで読んでくると、著者達の熱意に圧倒され、よく短期間でこれだけの内容を網羅したと感嘆してしまう。それぞれの著者が社会言語学の授業を担当し、日々の講義の準備の積み重ねから生まれた著作であると改めて敬意を表したい。学部・大学院の授業の教科書として、研究者のための参考書としてもお薦めしたい。

津田早苗（東海学園大学）

ESP 教育とノーマライゼーション

中部 ESP 研究会は、設立当初から工業英語を ESP 研究の根幹として研究を行ってきた。

社団法人日本工業英語協会（現在は公益社団法人）が実施している工業英語検定が文部省（当時）の認可を受け公的資格となったことにより、工業系高等機関の英語教育には、工業英語が重要な位置を占める可能性を示唆していた。社会のニーズが実学を求めて展開し始めた時期であったと言える。昨今では、理系指向の学生も多くなり益々 ESP 教育が高等教育機関における英語教育の中に重要な位置を占めるようになってきた。

今回 ESP 研究会の紹介にあたり、現在、中部 ESP 研究会が取り組んでいる課題の一つに障害学生を対象にした高等教育機関における実業を目的とする学生を対象とした英語教育の在り方がある。

「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」（通称・障害者総合支援法）が、2013年4月1日から施行された。従来大学に入学できなかった障害を持つ学生が、同法施行後、高等教育機関に入学する好機を得ることになるが、各種障害学生への英語教育の方法論は、まだ定まっていないのが実情である。現在、筑波技術大学は「聴覚・視覚障害学生のイコールアクセスを保障する教育支援ハブ」事業を展開し、障害を持つ学生を対象にした英語教育の実態調査を行っている。多くの実証例を検証することにより、近い将来、障害を持つ人たちと障害をもたない人との共存社会の構築に不可欠である。この調査に協力頂ける JACET 中部支部の会員の方は、筆者に御一報頂ければ幸いである。

馬場景子（中部大学）

The International Dialects of English Archive

Leah Gilner (Bunkyo Gakuin University)

Following up on the resource that I described in the previous issue, I would like to introduce The International Dialects of English Archive (<http://www.dialectsarchive.com/>). This archive provides another means by which to promote listening fluency through exposure to a wide range of accents. The Archive currently contains about 1,000 audio samples of English spoken by individuals around the world. Each contributor to the archive has provided a recorded reading of one of two elicitation passages (texts available on the site) plus a short demonstration of spontaneous free speech. Orthographic transcriptions are generally provided for each recording and editors' commentaries on observable characteristics are often included.

According to its founder, Professor Paul Meier from the University of Kansas, the original objective of the website when founded in 1997 was to provide actors with authentic samples and real-life models of accents that could be used to create dramatic characters. It is no surprise that IDEA has become a valuable resource for a range of fields, including applied linguistics, given the nature of the data that it captures. One's ability to process input and break down the speech stream into recognizable units depends on a combination of experience, exposure, and expectations. The audio recordings available on IDEA allow users to control the input and increase familiarity through deliberate repetition and study. This process increases experience and exposure which in turn promote broader expectations, resulting in better listening comprehension.

The website has recently undergone an interface renewal that makes it very user-friendly. It is fully searchable by country, state, and province as well as by characteristics of each

speaker, such as ethnicity, age, and occupation. Additionally, the Global Map view clearly indicates the origin of the speaker of a particular sample and the number of samples available for a given region, thus facilitating a systematic approach to instructional planning and implementation. The Archive could also be a helpful self-study tool for motivated students.

掲示板

『JACET 中部支部紀要』編集委員会では、第 11 号への掲載論文の投稿を受け付けます。以下の要領でふるってご投稿ください。詳細は第 10 号の投稿規程、支部 HP をご覧ください。

締切： 8 月 20 日

掲載料： 刷り上がり 1 ページにつき 1000 円の割合となります。

長さ： 論文 15 ページ、実践報告・研究ノート 10 ページ、書評 5 ページ程度

注意： 投稿方法や投稿先が変更される可能性があります。投稿規定詳細とあわせて、ホームページでご確認ください。

問合せ： JACET 中部支部事務局

中部支部紀要編集委員会

事務局より

◆新入会員のご紹介

2012 年 12 月から 2013 年 4 月までの中部支部所属新入会員は以下の方々です。(敬称略、入会順)

Taferner, Robert (横浜市立大学)、平石順久 (名古屋学院大学大学院 (大学院生))、Muller, Theron (富山大学)、Smith, Matt (椋山女学園大学)、Smith, Cameron (中部大学)、Stockwell, Michael (椋山女学園大学)、三上仁志 (名古屋大学 (大学院生))、Sayenko, Tetyana (名古屋商科大学)、中川ジェーン

◆2013 年度中部支部総会ご案内

2013 年 6 月 1 日 (土) に岐阜聖徳学園大学において、2013 年度中部支部総会を開催します。2012 年度事業報告と会計収支報告、および、2013 年度人事・事業計画及び予算の報告を行います。

◆2013 年度 JACET 全国大会のご案内

JACET CONVENTION 2013 -The 52nd International Convention- が 2013 年 8 月 30 日 (金) から 9 月 1 日 (日) まで京都大学にて開催されます。

テーマ：「英語教育の連携と相対化」

Collaboration and Relativization in English Language Education

◆第 40 回 (2013 年度) JACET サマーセミナーのご案内

2013 年 8 月 20 日 (火) から 8 月 23 日 (金) までの 4 日間、草津セミナーハウス (群馬県草津町) にて、2013 年度 JACET サマーセミナーが開催されます。詳細は JACET 本部ホームページをご覧ください。

テーマ：Motivation and autonomy: Researching and methodological perspectives in language learning

◆住所変更届提出のお願い

支部会員みなさまに、紀要や newsletter などの郵便物をお届けできない事例が増えています。お手数ですが、転居の際には、JACET 本部事務局と中部支部事務局の両方に、住所変更届をご提出ください。

詳細は、以下のサイトをご覧ください。

JACET 中部支部ホームページ
<http://www.jacet-chubu.org/>

◆ニュースレターは会員の皆様のフォーラムです。ご意見、ご要望等は事務局までメールでお送りください。投稿も歓迎いたします。

JACET-Chubu Newsletter No. 30

2013 年 5 月 10 日発行

発行者： 一般社団法人大学英語教育学会中部支部
大石晴美

編集者： 石川有香
佐藤雄大 室 淳子